

平成 23 年度第 3 回上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 意見集約票

○今後の具体的な取組について

上川中部定住自立圏共生ビジョンの変更について、共生ビジョン懇談会より圏域の将来像や具体的な取組について様々な意見をいただきました。今後、毎年度行う所要の見直しにおいて、関係市町で協議を要するもの、財政的な面から将来的な課題として検討を要するものなど、現段階で反映できないものについては、検討課題として関係市町と取組を検討します。

【圏域の将来像に対する御意見】

- ・現在の共生ビジョンは高齢化社会の観点を中心である印象があり、圏域の定住人口の減少を抑制するためにも、若い世代が定着し家族を持てる人口増加に向けた施策も重要と考える。
- ・若者が就職などで賃金が高いことから都会に出ていく風潮にあるが、このような地域での手作りの事業があるから自分たちも参加したいということで圏域に若者が戻ってくるような魅力的なまちとしていけたら良いのではないかと思う。

【具体的な取組に対する御意見】

(生活機能の強化の分野)

- ・圏域が抱える睡眠教育施設の高度利用に向けた取組を進めてはどうか。
- ・東日本大震災により被災された方々へ農地の提供など総合的な取組のようなものが、上川中部圏域として展開できると良いと思う。
- ・上川中部圏域においては中山間地の農業の連携が幹となるべきと思うし、その中で産業振興などの分野の連携強化を図っていくことが良いのではないかと思う。
- ・農業の自給自足率を高め、上川の農業の中でこういうものと打ち出せるような連携の取り組みを展開していけたら良いと思う。例えば、クリーン農業、農村定住、若者対象の地産地消など産業としての農業に若者が魅力を感じる事が出来るような連携事業を打ち出すべきと思う。
- ・北海道の「赤レンガチャレンジ事業」や旭川市の「ゼロ予算事業」のような予算付けを伴わない連携事業などの事業立案も考えてはどうか。

- ・企業誘致について圏域での情報共有により、単独町と旭川市の「協働プレゼン」、単独町と単独町による「連携プレゼン」、圏域一丸となった「圏域プレゼン」の体制で連携事業を展開してはどうか。
- ・市内地域商店街と近隣町中心集落の有機的結合を図る振興策について、旭川市が抱える地域商店街の再興策に、直近の近隣町住民を参画させ、一方、近隣町の中心集落活性化に、直近の旭川市民を参画するような、連携事業を展開してはどうか。
- ・圏域が抱える有意なフットパスの整序

【その他】

- ・共通連携事業と選択連携事業の2枚重ねの連携事業の重層化により、定住自立圏構想の奥行きと幅を確保し、各市町が明確な役割分担により圏域運営の体制を早期確立すべきと思う。